所報　平成3年9月15日創刊　平成31年2月15日発行・毎月1回15日発行・No. 315
一般社団法人 協同総合研究所 ISSN 1344-7300

協同の発見

きょうどうのはっけん

第315号
2019.2

特集

労働者協同組合法制化後を見据えての協同労働ネットワークの展望

◎ 菊地　謙　協同労働の協同組合ネットワーク　ちば11年の取り組み
◎ 江花 和郎　新潟からの報告「にいがた協同ネット」の活動を中心に
◎ 岡村 信秀　労働者協同組合法制化後の課題－協同のネットワークの実践から考察する－
◎ 田嶋 康利　協同労働が法制化される時代　協同労働推進ネットワークを新たなステージへ

■協同の広場
◎ 平吹 紗良・永友 綾香・金島 和希・池亀 雄大(駒澤大学経済学部　松本 典子ゼミ２年)
「いぶりがっこ」を使用した秋田県大仙市PRプロジェクトについて
◎ 前田 健喜　今ここからの革命－加藤彰彦先生のお話をお聴きして－

■海外レポート
宮澤 宏樹　インドIDEC/APDECに参加して

■ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(Vol.24)
髙木 久史　労協に入ってから６年

■巻頭言
髙成田 健　協同労働が住民自治を促進し、安心して暮らせる協同の地域社会の実現へ

一般社団法人 協同総合研究所
JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字／藤原 桂州

協同の發見

第315号 2019.2

特集　労働者協同組合法制化後を見据えての協同労働ネットワークの展望

目 次

巻頭言
協同労働が住民自治を促進し、
安心して暮らせる協同の地域社会の実現へ …… 2
高成田 健(日本労協連事務局長/会員)

特集　労働者協同組合法制化後を見据えての協同労働ネットワークの展望
• 特集にあたって …… 4
相良 孝雄(協同総合研究所　事務局長)

• 協同労働の協同組合ネットワーク　ちば11年の取り組み …… 6
菊地 謙(ワーカーズコープちば専務理事/
協同労働の協同組合ネットワークちば事務局長/会員)

• 新潟からの報告「にいがた協同ネット」の活動を中心に …… 13
江花 和郎(元新潟県労福協理事長)

• 労働者協同組合法制化後の課題
－協同のネットワークの実践から考察する－ …… 18
岡村 信秀(ひろしま「協同労働」推進ネットワーク副代表/協同総研副理事長)

• 協同労働が法制化される時代
協同労働推進ネットワークを新たなステージへ …… 26
田嶋 康利(日本労協連　専務理事/協同総研常任理事)

協同の広場
「いぶりがっこ」を使用した秋田県大仙市PRプロジェクトについて …… 38
平吹 紗良･永友 綾香･金島 和希･池亀 雄大(駒澤大学経済学部　松本 典子ゼミ２年)

今ここからの革命－加藤彰彦先生のお話をお聴きして－ …… 42
前田 健喜(日本協同組合連携機構(JCA)協同組合連携部長・主席研究員/協同総研理事)

海外レポート
インドIDEC/APDECに参加して …… 46
宮澤 宏樹(センター事業団　東関東事業本部　茨城エリアマネージャー)

ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(Vol.24)
労協に入ってから６年 …… 55
髙木 久史(杉並エリアマネージャー兼杉並地域福祉事業所所長)

労協連だより　髙成田 健 …… 60
研究所だより　相良 孝雄 …… 61

巻頭言

協同労働が住民自治を促進し、安心して暮らせる協同の地域社会の実現へ

髙成田 健（日本労協連　事務局長/会員）

２月15日－16日、日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会（以下、労協連）は、第39期第２回地域労協会議を愛知県豊田市ほかで実施。愛知県高齢者生活協同組合（以下、愛知高齢協）が豊田市保見ヶ丘団地（7200人中、4000人近くが日系ブラジル人を中心とする外国人が暮らす）で運営する「ケアセンター保見」（訪問介護、放課後等デイサービス）では、働く14人の組合員のうち６人が外国人。2008年リーマンショックで大量失業が広がるなか、雇用シンポジウムを開催し、その後日本人と外国人が共に受講する基金訓練を開講。その卒業生と共に、2011年にヘルパーステーションを立ち上げる。

「相談に来る高齢者、障がい者は『どこに相談したらよいか分からなかった』と本当に困っていて、今で言う生活困窮者、孤立した方々が多かった」と藤井克子愛知高齢協専務理事。訪問介護と放課後等デイサービスの管理者の上江洲恵子さん（日系ブラジル人）は、「仲間の外国人たちの生活を支えたい思いから、介護保険制度や生活保護制度など制度が変わるごとに自分たちで学習した。そして働きたい仲間を集め、愛知高齢協で初任者研修を開催するなど、協同組合では自分たちで学びたいことを自分たちで考えて実行できると実感。勉強したことは、そのまま団地に住む外国人たちを支えることができ、やりがいのある働き方であり、以前働いていた自動車工場では、自分たちが考えることや意見をすることはできなかった」。また「卒業生の仲間は給料がよい他の介護職場に就職した人たちもいるが、言われたことをするだけのヘルパーとなっている。自分たちは地域で信用され困ったら相談される存在となり、行政からも介護通訳など頼られ、地域で受け入れられ、お金も稼ぐことができることもあり、愛知高齢協が好きで、（高齢協に）感謝している」とのことであった。

70歳を超えている藤田パウロさんは資格はないが送迎やケアスタッフとして働きながら、団地のごみ集積場の分別を毎日ボランティアで行なっており、文化・生活様式の違いを教えるなど外国人と日本人を繋げる架け橋となっている。１年に１度のほほえみ祭りを実施し、日本人も外国人も、高齢

者も障がい者も一緒になって、郷土料理を作って食べ、歌い、踊って、楽しんで交流している。

地域労協会議のグループ討議では、労働者協同組合法が成立することで、「地域からは何を期待され、自分たちは何を伝えていくのか」というテーマで話し合った。協同労働による事業展開や各種制度活用、運営・経営などさまざまなことが出されたが、グループ討論の結論として一番伝えたいのは、「協同」の働き方ではないかということになった。つまりその人らしく・人間らしく・一人ひとりが尊重される働き方(ディーセントワーク)が協同労働であり、それをワーカーズコープが大切にすることであると。グループ討議に参加していたリーダーたちも、入団したときは自分自身も困難を抱えているときに声を掛けてもらい、働きながら支えられ、救われ、やりたいことに挑戦できる環境があり、今の自分があると振り返っていた。そのような経験をしてきたからこそ、目の前の困った仲間や地域の人の声をなんとかしたい、支えたいという衝動を、一人では解決できなくても仲間と話し合う中で実現できるのではないかと感じる。その一人ひとりの実感を全国の仲間が発信することで、更なる多くの困難を抱えた人たちと繋がり、仲間となり、勇気を与えることになるのではないか。

労働者協同組合ではお互いの違いを認め合う上で、それぞれの想いを出し合い、折り合いを付けながら、1つずつ実現していくことができる。全国の仲間が、そして新たにこれからつながる地域の方々が、話し合いを通してその人の想いや課題解決の仕事おこしや社会連帯活動を広げることができる。そんな自由で創造的なワーカーズコープが、またそれを推進する連合会ができればと胸が躍る。各県や各市など地域でそれを支えるネットワークをつくり、協同の働き方・生き方を伝え、協同労働で働く人たちが広がればと思う。また企業や自治組織やNPOでも協同労働のような働き方はでき、法制化は、結果として協同の働き方や生き方が地域で広がることにつながる。協同労働の広がりは自分たちの地域を自分たちで作っていく住民自治や民主主義の広がりであり、安心して暮らせる協同の地域社会の実現であると思う。

●今月の表紙

2018年8月23日・24日に協同労働の協同組合ネットワークちば10周年記念企画で、東北ツアーを開催。被災地でのワーカーズコープの活動や被災地復興に向けて取り組んでいる現場を訪問。

所報　協同の発見　２月号（通巻 315号）

2019年2月15日（毎月1回15日発行）
編集・発行／一般社団法人 協同総合研究所
代表／島村 博
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7F
Tel 03（6907）8033　Fax 03（6907）8034
Email　kyodoken@jicr.org　　URL　http://jicr.org/
郵便振替口座　00140-7-552949

定価 1,300円（本体 1,204円）